



FMで「安曇野日和」

4/1～ FM長野で新番組

安曇野の名所や四季折々の情報などをお届けするラジオ番組「安曇野日和」が、今月から長野エフエム放送（FM長野）で始まりました。放送日時は毎週火曜日の夕方4時55分～5時の5分間で、観光名所での取材などを通じ安曇野の魅力を伝えます。

同ラジオ局は県内の聴取率が特に49歳までの若・中年層で約6割と高く、また、ちょうど夕飯の買い物や会社帰りなど車でラジオを聞く人が多い時間帯の放送で、市商工観光課の担当者は「地域の皆さんはもちろん、県内に広く安曇野の良さを伝えられるのでは」と、そのPR効果に期待を寄せています。



今年から自生の桃の花も

3/23 桜の里山づくり植樹祭

桜の里山づくり植樹祭が3月16日、光城山で行われました。この日は市民や関係者など約60人が参加。光城山中腹の登山道脇の斜面に桜の苗100本、初の取り組みとして自生の桃の苗60本を植えました。光城山の桜の植樹は昭和50年、山林や登山道の荒廃を見かねた区民が、桜の保全と登山道の整備を始めたのが由来です。その努力が実り、光城山の桜は名所となり、多くの登山者や市民の目を楽しませてくれています。

光桜を愛する会会長の降旗衛^{まもる}さんは、「区民やボランティアが中心になって、草を刈るなど登山道の整備を続けている。桜が地域や仲間をつないでいる」と話しました。



農林水産大臣賞を受賞

3/10 旬の味ほりがね物産センター組合

地産地消の取り組みで農林水産大臣賞を受賞した農事組合法人・旬の味ほりがね物産センター組合（片桐敏雄組合長）は3月10日、受賞の報告に市役所を訪れました。

表彰は2月28日、東京都で開かれた全国地産地消フォーラム2008で行われ、同組合は、女性が運営の主体となり、年間6億円以上の販売実績があることなどが評価され、地域振興部門でこの賞を受賞しました。平林市長は「希望を持たせてくれる施設。組合員の皆さんによる素晴らしい成果」と話しました。

地域福祉計画

計画の理解を深めるシンポジウムを開催



計画策定の思いを付け加え説明した

安曇野市地域福祉計画シンポジウムが3月15日、豊科ふれあいホールで開かれました。このシンポジウムは、市民参加のもと、約2年をかけて策定した計画への理解を深めてもらうため開催されました。

この日は、市民など約120人が参加し、計画の策定にかかわった委員などの思いや、福祉活動の進め方などを話し合うパネルディスカッションなどが行われました。市では今年度、この計画のダイジェスト版を市内全戸に配布する予定です。

情報化計画

情報化施策の方向性を盛り込む



河西会長（右）から計画書が手渡された

安曇野市情報化計画策定委員会（河西宏之会長）は3月21日、安曇野市情報化計画書を策定し市長に提出しました。同委員会は、公募委員3人を含む12人で構成され、市民アンケート調査結果の分析などから課題を精査。平成20年度から3年間の情報化施策の展開方法を計画としてまとめました。河西会長は「ICT（情報通信技術）は、あくまで手段の一つ。人と人との交わりが大切で、これを深める手段として活用すべき」と意見を添えました。今後はこの計画書に基づき、施策実現のための取り組みを行います。

災害協定

歯科医師会、薬剤師会と調印



災害時に備え、協定を結ぶ

市と安曇野市歯科医師会（丸山慶四郎会長）、安曇野薬剤師会（中嶋培夫会長）は3月3日、「災害時の医療救護に関する協定」を結びました。この協定には、災害時に歯科医療救護班、薬剤師班を編制し、災害現場での医療救護活動を行うことなどが盛り込まれています。協定書の調印を終え、丸山会長は「災害が起きた場合、みんなが協力し合わなければならない。協定を結んだことで会員の意識も高まるのでは」とあいさつしました。今後は、すでに災害協定を結んでいる市医師会と連携し、実践的なマニュアルづくりを行います。